



健診結果を確認しましょう！

今年度の総合健診は6月10日～16日(15日を除く)までの6日間で実施し、741人(※)が受診しました。受診者には結果説明会または郵送で結果を配付しましたので、これまでの結果と比較してご自身の生活習慣を振り返ってみましょう。

(※社会保険被扶養者及びがん検診のみ受診した方を除く)



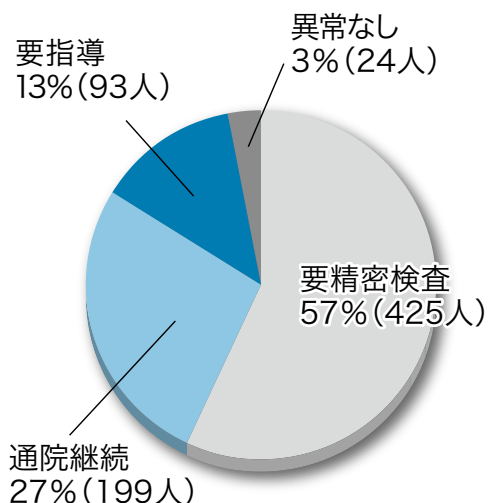
令和6年度総合健診の結果

総合健診で健康診査を受診した741人のうち、一項目以上要精密検査に該当したのは425人(57%)、すべての項目が異常なしの方は24人(3%)でした。

健診の目的は、生活習慣の振り返りと病気の早期発見・治療です。要精密検査に該当した方は、「このくらい大丈夫だろう」「来年の健診まで様子を見よう」などと自己判断せず、必ず医療機関を受診してください。放置しているだけでは検査結果の改善や病気の予防にはつながりません。

また、検査結果の見方や、生活習慣の改善方法について詳しく知りたい場合は、健康福祉課にお問い合わせください。

検査結果の内訳



健診受診の目的

- ・生活習慣の振り返り
- ・病気の早期発見、治療など

結果が届いたら…

- ・これまでの結果と比較する
- ・精密検査は必ず受診する
- ・来年も健診を受診する

要精密検査: 詳しい検査が必要です。必ず医療機関を受診してください。

要 指 導: 生活習慣の改善と経過観察が必要です。

通 院 継 続: 主治医の指示に従い、経過をみましょう。

異 常 な し: 今回の健康診断では異常を認めませんでした。

令和6年度 平田村敬老会について

令和6年度の敬老会を令和6年9月8日(日)午前9時30分から、平田村勤労者体育センターにおいて実施します。

村内に居住する75歳以上の方(昭和25年4月1日以前に生まれた方)に、別途通知しますので、ぜひご来場ください。

家庭で食中毒を防止しましょう！

食中毒は、飲食店や旅館での食事が原因と思われがちですが、家庭でも発生していることをご存じですか？

食中毒のほとんどは、その原因となる細菌やウイルスが食べ物に付着し、体内へ進入することによって発生します。

次のルールを守って、健康に楽しい夏を過ごしましょう。

【食中毒予防のルール】

- ①小まめな手洗い 石けんを使って丁寧に
- ②調理器具の洗浄消毒 使用後はすぐに洗って清潔を保つ
- ③食材の冷蔵保管 要冷蔵品は素早く冷蔵庫へ
- ④十分な加熱 肉や魚はしっかり中まで加熱を
- ⑤できたらすぐ食べる
すぐ食べない時は冷蔵庫へ



ひらた中央病院



ひらた中央病院
小原 大治 医師

今回は難聴と認知症の関係について説明します。

人は年をとると、五感すべてが衰えます。中でも聴覚が衰えると脳に入る情報量が減り、脳自体の働きも低下するので注意が必要です。家族との会話が減ったり、人と会るのが億劫になったりすることで、うつ状態や引きこもり、認知症につながる可能性があります。

難聴の程度

- ①小さな声が聞こえにくい軽度
- ②普通の会話が聞き取りづらい中等度
- ③大きな声でも聞こえづらい高度
- ④耳元の大声でも聞き取れない重度



聴覚とは耳から入った音は鼓膜に伝わり、内側にある三つの骨で増幅され、その奥の蝸牛^{かぎゅう}と呼ばれる場所で電気信号に変換され脳に伝わるシステムです。耳介から蝸牛までに異常がある場合を伝音難聴、蝸牛から脳までに異常がある場合を感音難聴といいます。伝音難聴の人は小さな音から大きな音まで聴力低下があり、感音難聴の人は、大きな音は正常聴力の人と変わりありませんが、音を聞き取れる範囲が狭いため、小さな音が聞こえないだけでなく音がゆがんで聞こえます。老人性難聴は、加齢以外に特別な原因がない難聴で蝸牛の機能低下により引き起こされる聴力低下で、聴力低下は左右差がなく、特に高い音から聞こえにくくなるのが特徴です。60歳代後半頃から症状が現れる人が多く、80歳になると男性では8割以上、女性では7割以上の方が老人性難聴になっています。

老人性難聴は進行すると日常生活に支障を来すことも少なくありません。加齢が原因なので進行を止める方法や明確な治療法はありませんが、耳鼻科で検査する必要があります。多くの老人性難聴は補聴器で改善可能です。補聴器は持っているが、操作がわからず、使っていない方はたくさんいます。補聴器装着や操作にはトレーニングが必要です。早い段階から補聴器を使用開始すると操作に慣れやすいです。聴力低下で不便を感じたら、耳鼻科受診を勧めます。

お問い合わせ: ひらた中央病院 ☎55-3333